

地方財政経済調査会報告

第三号



地方財政経済調査会
大連市
及
財政部
印刷

外資輸入の向度

目次

- 一 外資輸入の三つの型 一頁
- 二 外資輸入の重要性 三頁
- 三 クレジット獲得の條件 三頁
- 四 クレジットの運用 四頁
- 五 クレジット獲得のための日本経済のあり方 四頁



外貨輸入の困難

一 外貨輸入の三つの型

日本の物産不足はクレタツトの懇請を必要とせしめる
クレタツトを懇請するといふことはそれによつてうる物を借りることである。その借りる品物の
種類、期間、貸し手、その他の條件で現在問題の外貨を大別すると次の三種になる

第一は、食糧等の他日本人の生命維持に不可欠な品物を救急的に連合軍に仰ぐ場合である、我
後に記述されている輸入食糧がこれである。これは占領軍当局により、それらの品物の相当額
を日本の輸出品で返すつもりで立替えてもらつたものである。日本の輸出の第一の目標として
せめてこれだけは毎年借金として取りぬけに拂つて行きたいのであるが、去年は一億八千万冊
の借越になり、今年は輸出不振のため一層借越が増加するだろう、このクレタツトは、消費的
難民救済的のものであるから、このような援助がいつでも日本に生産が立ちあがりぬい破り
今より状態は改善されはしないのである

第二は、通貨救済がクレタツトの形を呼ぶ、戦期の、商業的融資であつて普通の銀行の手段に
よつて原料、半製品、製品を借りることである。この方法の一部である。日本の紡績が棉花を
借りて綿布を輸出するやり方を油や鉄鋼その他多くの原料におしひろげ、現在の生産設備を
動かして行こうというものが、現在先づから用いられているクレタツト要請であるが、これだけでは日本
の食料は、時代おくれの生産設備を近代化し拡張するには、充分とは云えない

第三は、長期のクレタツトであつて、工業を建てたり、鉄道を敷くための借金並びに投資であ
る

結局、この種クレタツトを幾層する機運をつくらねばならぬ
ここで米国の資金即ち物資が海外に放出される型をみると、大體次の通りに分けられる
一、純投資並びに救済的クレタツト——即ちプランラ、ララ、軍による占領地救済事業及び在外
水攻村所有物資の弗下
二、政治的クレタツト——即ち武器貸与法からエキスポートアンドインポート控行及び復興開
発銀行等に至る厚敷の相違こそあれ政治の意向を道徳に反映した融資
三、民間クレタツト——即ち民間銀行の融資、外国の米國に於ける起債および民間自治政策
この三つの型のうち、第一の救済的クレタツトは占領政策の一部であつて、経済原則の専外に
あり系統すべき性質のものではない

第二の政治的クレタツトは、経済原則に影響される部分が多いが、今後は益々多
の傾向が顕著になると懸念される。現に共産党は國費の削減を重要な政策として主張しており
それと米國の世界政策との点まで調和させうるかは將來の問題として注目されるが今後米國
政府の側でこのようば傾向は益々強くなるものと思われらる

第三の民間クレタツトは、然るたる経済原則に支配される、占領下の現在は別として、將來日
本が安全有利な投資市場であることとを証すれば、資本は抱かずして流入するであらうし、多少
でなければ資本は決して入つて来ないし、入つて来てもしも中途離れるにせう。競争資本逐
済を余りに政治的に及ぼさるべくせうついた日本入はこのことをはつきりしておく必要がある

二

外資輸入の必要性

日本は戦争によつて機械と設備の大半を破壊され、更に残つた機械は賠償のため没收され、それ
れでなくとも戦争中全く回失になり回つて振舞してゐる。原料と製品は殆ど消耗しつくした。後
進の先進合算の援助をうけてゐる。日本の生産能力が外國の否、戦前の日本に比べても
著しく低いのは日本の生産設備即ち資本が極度に消耗してゐることを物語つてゐる。即ち日本
は短期クレジットの必要を、今直ちに困難であろうが長期の投資をも確保しようる機運を可
難を排してつくらねばならぬ。

三

クレジット獲得の條件

日本入は戦争以来、資本に対して非常に不利な條件に甘つてゐるが、これは外國に對しては
適用しない。復興開発銀行のよ様な政府出資の機關は政治的に動くことと時にはあるが民間
銀行は、冷徹保守的の災業人の監督するものである。復興開発銀行は所謂水災業内の投資する
ものであつて、クレジットを得ようとするならば、其の背後にある無数の民間銀行並みに投資
家の心を捉えねばならぬ。クレジットの相手は外國の資本家であるから商売の倫理によつて
動くものであることを充分わきまえて、あくまで信義を重んじて、外國の信用を得るようにし
なければならぬ。かつての日本はその點で世界に誇るものを持つていたので、今や外國に
高く買はれてゐる。戦後の日本は猜疑と不信の中から出発するやうであるから、誠意に注意しなけ
ればならぬ。相手の投資家を感心させるまで行けば、信用條件も段々有利になるだらう。つま

外一

りこちらから買れいクレジットしと云ふ本に、向うから、やうクレジットしと云ふせうに持つ
て行かねばならぬ。米國はV.F.D.A.Y.以て米百十億の融資を歐洲に供与したが、向う九行く
クレジットは日本ももたらうくういになければならぬ。

クレジットは救済的のもの、短期のもの、長期のものたるを問はず、通貨の總量に對して物資
が増加するのであるから、インフレーションを阻止する力があることは明らかであるが、短期
クレジットによつて、当面の窮状を打開し、更に長期のクレジットによつて日本産業の構造を
根本的に根本的に建て直さなければならぬ。一方米國側から買ると、徳金した國でインフレ
の度合が減じるのと下度逆の作用を起すのであつたばらば米國全体が買成すことではない
アケンン國務次官は、外國に對する経済援助進入を主眼とする一方、国内統制存続の必要を力説
してゐる。外國への援助を感心し、沿に金を捨て、いろいろに買はせれば、何時援助をや
める氣持にはるかかわからぬ。それゆゑに徳金した方でも、絶対に浪費を、し、及、最も有効に
使わねばならぬ。

クレジットを有効に使うため、國內の産業構造を改めなければならぬ。産業の進む方向即ち
資金を注入する投資の方面が変化する一例として生糸をみる。生糸はナイロンの登場によつて
流行が一変し、米國の 絹の一年分が米國內に、更に一年分が日本の港に、都合二年分はま
つてゐる。このようば産業は他にも多数あると思わねば、今後の日本経済は國際的に最も成
果が多い方向に転換させねばならぬ。政策は望むべくないが、新しい國際パラメータによつ

四

を完全種権こそ本當の完全種権であると考へられる
四、ブレカットの運用

考へられた外貨の運用は純經濟的ではけられはならない。何れも純經濟的に考へて有利であるかは
曰卒の輸出産業が世界經濟と團結したならば引合ふかどうか又云ふことと判断できる。又一曰
前の輸入食糧の代価を支拂い、今後外貨の利息を募り出すのは輸出品であるから、種然産
業が産業振興の第一目標ではけられはならない。

五

ブレカント獲得のための日本經濟のあり方

ブレカントをうるには、日本は米國並みに世界に対して、改めて銀行家の所網を八極用を確立
しなけれはならない。そのためには、日本經濟は絶対的に世界平和の脅威をばらばらにけり
く、世界經濟に被立つ方向に改進を決心であることを見以て承すべである。日本は世界
に向つて、開放及び通商障礙の撤廃を含む、經濟的國家主義の全面的放棄を宣告し、日本が
深にばらばらることを誓うべきである。これは日本産業の效率を益大にし、資本力から見て、世界
内に成立つ産業に力及融通するのであるから、政府が購買にはる。日本をめぐり欲せんと欲する
通小販することと許さるべき。それらも日本の國家主義の機軸を恐れるからである。
外貨輸入の向願も日本經濟の復興が世界經濟再興に役立つ方面にす、必ことを示してのと同策
であると思へらる。

（ 七 井 礎 二 部 委 員 ）

四二